

森林環境譲与税活用に関する意見

●新規事業(令和6年度～)

①新中学校校舎建設事業への活用(木材利用の促進、普及啓発)

1	<p>できるだけ地元の木を使い、温かみのある校舎を造ることが望ましい。</p> <p>特に、多くの生徒が利用する図書室に絞った活用を提案する。木を生かした室内装備、木製の書架、机、椅子の設置等、地産の木材を身近に感じられるような親しみのある図書室にする。</p>
2	<p>充てられるだけ、図書室整備に充ててほしい。</p>
3	<p>校舎に木材を利用するのはとても良いこと。利用するとともに、森林環境譲与税の意義を生徒に教えてほしい。</p>
4	<p>校舎建築の木材を通じて、児童生徒に対して地球温暖化防止への意識の醸成を図る学習を行うことが望ましいと考える。</p> <p>学習の進め方については、地球温暖化防止対策の活動を長年行っている富士川町地球温暖化対策地域協議会に協力を仰ぐことが望ましい。</p>
5	<p>町内事業者により伐採、製材・加工が行われることで、カーボンフットプリントの観点からも地球温暖化防止推進が更に進むと考える。</p>
6	<p>ぜひ、町産木材を使って進めてほしい。子どもたちの使う学校なので、使用する備品(本棚、靴箱、モニュメント等)を、生徒や保護者、地域の人も関わって一緒に作ったら普及啓発と同時に思い出のある学校になると思う。</p> <p>年齢が中学生なので、地元の建築士さんや大工さんにも関わってもらい、設計から東屋や小屋作りの体験も森林環境譲与税の利用に適していると思う。大工さんに憧れる生徒も出てくるかもしれない。</p> <p>可能なら、森林環境・地球環境を考えていく上でハードルの低い皮むき間伐を体験して、森の現状を知るところから関わるのも良いと思う。</p>
7	<p>校舎建設に係る経費への充実に賛成。子どもたちの教育環境のためにも、適切な充当を望む。</p>
8	<p>耐震強化のため、躯体の鉄筋コンクリートはやむを得ないが、内装にはふんだんに木を使うことが望ましい。また、学校教育で森林の持つ公益性を教えること必要がある。</p>

9	校舎での木材利用の意義を浸透する上で、建設時の木材利用のみならず、継続的に森林を活用できる仕組みがあると良い。例えば、全館は無理にしても暖房での活用、授業での活用等。

②子育て支援に関する事業(木材利用の促進、普及啓発)

10	地元産の間伐材を使用して、木工作品づくりのワークショップを提案する。
11	ふるさと自然塾での森林学習の実施。
12	保育所等に地元産材の遊具を親子で設置する。
13	保育園の外遊びの木製大型遊具が良いと考える。体を動かし外で遊ぶことで子どもの発育を促すことができる。
14	現在(将来)の子育て世代が、森林(環境教育)・木材利用に対して何を望んでいるかは、当検討委員会の討議では人数が少なく偏った意見になる可能性があるため、令和6年度は、ニーズ調査(木工試作、含む)の年度とすることが望ましい。
15	町内の方に出産祝いの贈呈。安全な木のおもちゃは喜ばれると思う。 森の環境が良くなることで、川～海までの水環境も変わるので、上流域から下流域の交流として、静岡県側にも出産祝いの贈呈も良いと思う。
16	木育スペースの設置。
17	はくばく文化ホールで行われる「キッズフェアまほらの森イベント」への充当。
18	子育て支援に関する事業への充当に賛成。子どもたちの教育環境のためにも、適切な充当を望む。

19	<p>児童センターや保育園のシンボルとなるような木製大型遊具の設置を提案する。</p> <p>子どもの遊びには無限の可能性がある。遊具を設置することで、子どもの感性や世界観を広げていくことができる。また、木製の遊具は、あたたかみや、やすらぎを子どもたちに与える効果も期待できる。</p> <p>そして、子どもが大人になったとき、遊具で遊んだ記憶は、ふるさとの思い出となり、郷土愛を育むことにもつながっていくと思う。</p>
20	<p>子どもの年代や成長に合わせて継続的なプログラムがあると良い。例えば、タケ・広葉樹の落ち葉の活用「森林」→有機農業の学習「農業」→給食「教育」、この流れに「福祉」を加えることも可能。</p> <p>国が進めている「みどりの食料システム戦略」は、化学肥料の原料をほぼ輸入に依存している現状があり、環境負荷も大きいことから気候変動対策のために「有機農業」を推進している。</p>

●令和8年度以降の導入に向けて検討する項目

①重要インフラ隣接森林整備事業導入の検討

21	<p>町民の安心安全な暮らしを守るために特に重要な事業と考える。</p>
22	<p>重要インフラは、事業の概要説明が必要。特に、事業がどのように地球温暖化防止につながるのかという点の説明が欲しい。</p>

②路網整備の検討(優先度調査の実施)

23	<p>路網整備は、森林を利用しやすくするために必須。優先度調査は良いと思うが、単に森林蓄積・傾斜・林道からの距離など文献調査で機械的に優先度を決めても森林の団地化がされていないと(森林所有者の同意がないと)と路網整備できない。路網整備を進めたいのであれば、まずは、実際に路網整備を行う事業者への聞き取りを行い、必要に応じて全体調査を行うことが望ましいと考える。</p>
----	--

24	林道・作業路の整備を進めてほしい。

③林業事業者への補助制度の検討

25	将来の林業発展に向けて重要な事業だと考える。
26	ほかの産業に比べ林業作業員は年間所得が100万円安いという林野庁の報告がある。林業事業者への「直接的な」補助制度は、労働生産人口が減少している現在必須であると考ええる。

④町有林を活用した森林環境教育事業の検討

27	町内小中学生を対象にした町有林の間伐や草刈り等実地活動を等して学ぶ。
28	町内で行われている森林環境教育の現状が提示されていないことから、それを知りたい。
29	町有林での体験会などイベントを通して町内外の参加者を募る。

⑤スマート林業導入の検討

30	スマート林業といってもピンキリである。業務削減につながり、比較的安価に導入しやすいことから、町でマプリア(レーザーによる森林資源情報取得・解析)を購入し、適宜貸し出しを行うのが初心者向けと思われる。

⑥農林大学校森林学科との連携事業の検討

31	<p>県内唯一の農林大学校森林学科が本町内に設置されているので、連携することは良い。ただし、地球温暖化防止という面で森林学科に何を求めるのかは、明確にすることが望ましい。</p>

⑦その他

32	<p>(林業機械レンタル事業) 今後、里山の放置竹林が大きな問題になっていく。問題が深刻になる前に南部町のように、譲与税でチップを購入し、使い方を研修した人に貸し出すことで、森林整備が進むとともに竹チップの敷設によりタケノコの収穫量増が見込める。</p>
33	<p>(フォレストウォーキング構想) 登山でなく気軽に森林を散策するには森林歩道が必要だが、適した森林歩道は多くない(森の教室の歩道は珍しい)。そのような森林歩道(幅員2.5m程度)を整備し宣伝することで、森林関係人口を増やし、森林(木材)利用をしやすくすることが、本町の多くをしめる未整備森林を本町の新たな魅力と変換させることとなる。本構想は、森林歩道設置の基本計画費・整備費及びPR費とする。</p>
34	<p>生育は遅くて、育てば重くて、当然値段も高い木材と、電話一本で簡単に速く安く調達できる軽量鉄骨などではそもそも比較にならないが、これからの時代は、森林を保全していくことがいかに価値あることか、商品経済としての価値のみを追い求めてきたこれまでを顧みて、人間の生存に関わる重要な営為であるという啓発をしっかりと仕掛けてほしい。</p>
35	<p>森林のインフラ整備には、緻密なデータや分析が必要。また、現場を担う事業者は、社会において最も危険な職種で重労働であり、相応の賃金や補助制度が必要と考える。 更に啓発には、農林大学校などと提携するほか、メディアとうまく連携して、あらためて林野行政への理解を広げていくことが重要と考える。</p>
36	<p>検討項目の事業については、検討しやすくするため、フォームを設定すると良い(事業名、対象者、課題、事業内容、予算、森林整備への関連度、参考事業名等)。</p>

37	<p>各事業とも結果的には森林整備を高める可能性がある。事業の優先度を定めるにあたり、事業の説明後、検討委員によるポイント制の投票を行い、高得点から採用するのが合理的。富士川町森林整備計画 P.47 に森林環境譲与税の【優先順位】はあるが、それに依らない検討委員の意見を反映させるのが検討委員会の所掌であるため。</p>
38	<p>任意団体が行っている皮むき間伐は、子どもたちと保護者に紙芝居で、外国の森の木を使いすぎて森が少なくなっていることと、日本の森が手入れされずに痩せてしまっていることを伝え、自分たちのご先祖様が植えてくれた木を使って、外国の森を守って日本の森を豊かにしようと山主さんから直接森を借りて皮むき間伐の体験や間伐材を使ってワークショップを開催している。</p> <p>また、小学生・中学生～大人にもお話し会とセットで皮むき間伐を体験してもらい、森に関心を持ってもらえるように働きかける活動をしている。</p> <p>このような富士川町の森の再生や環境教育にかかわっている団体、間伐材の利用を率先して行っている団体に森林環境譲与税を充当できる仕組みをつくってほしい。</p> <p>個人所有の森の再生も進み、体験会やワークショップの開催と同時に普及啓発もできて、森林環境譲与税の活用に対する認知度も上がると考える。</p>
39	<p>増穂南小学校の学校林では、皆で間伐した木を加工後に6年生が1年生の机作りをするという取組がメディアで取り上げられていた。6年生の机は、本棚作りのキットとなる。こういった学校教育に関する取組は、毎年のことになるし、地域の大人も情報を得やすく普及啓発にも良いので学習も兼ねて各学校でとりいれたら良いと思う。</p>
40	<p>イベントを打つと「未来の子どもたちや、森の蘇りの一助になるなら！」と直径20センチ程の細い間伐材ですが、「壁のリフォームに使いたい」「ウッドデッキ作りに使いたい」「ちょうどDIYで棚を作りたいと思ってた！」と言ってくれる人達がいるが、少量だと製材に費やす時間もお金もかかるので丸太でしか出せない現状がある。</p> <p>そこで、木工機械を取り入れた一般向けのシェア工房を提案したい。</p> <p>個人で行う古民家再生やDIYが流行っているし、環境意識の高い人も増えてきている。町産木材をいろいろな人に気軽に使ってもらえることができるし、林業に関心を持ってもらうきっかけになると思う。</p> <p>また、ウッドチップの導入を提案する。粉碎したチップを利用すれば雑草の発生を抑えたり、バイオマス資源として植物の肥料としても活用できる。</p>
41	<p>住宅建築に木材の優位性をアピールする必要がある。</p>